平成 20 年　　3 月

株式会社　山下設計

1. 基本理念

平成１８年度に策定した「玉名市役所新庁舎建設基本構想」に掲げる基本方針を踏まえ、玉名市新庁舎建設基本設計にあたっての基本理念を次の５つとします。

基本理念 1.　充実した市民サービスと住民自治のための「開かれた庁舎」づくり

充実した市民サービスのための窓口空間と、地域社会を担う市民・議会・行政の三者が主体性を持って市政に参加できる場を持つ、地方分権時代をリードする「開かれた庁舎」の実現を目指します。

基本理念 2.　将来の変化に対応できる「質実で高機能な庁舎」づくり

将来の行政需要の変化、市民参加の拡大、情報技術の革新などにも柔軟に対応でき、華美にならず合理性に則った「質実で高機能な庁舎」づくりを目指します。

基本理念 3.　市民を支える「安全・安心な庁舎」づくり

台風などの自然災害に対して機能維持できる安全性の高い庁舎を実現し、障がい者や高齢者などにやさしく、誰にとっても安心なユニバーサルデザインの徹底を図ります。

基本理念 4.　自然・都市・田園をつなぎあわせる「緑のインフラ」づくり

公共施設が集積している計画地周辺一帯を、やわらかな緑でつなぎあわせ、一体的な緑地空間を創出します。

基本理念 5.　環境対策の象徴となる「先進的エコ庁舎」づくり

豊かな玉名の自然、美しい田園風景に調和し、環境共生を図るまちづくりを先導する「エコ庁舎」の実現を目指します。

2. 建物の基本的な考え方

基本理念をもとに建物を具現化する上での考え方の骨子は次の５つとします。

a.　窓口におけるサービス機能の充実

ワンストップサービスとユニバーサルデザインによる利用しやすい窓口空間を創出します。また、情報化時代の庁舎としての情報発信機能を併せ持った庁舎とします。

b.　機能的で自由度が高い平面計画

高機能で将来的な組織の変更などにも柔軟に対応可能な自由度の高い平面計画とし、構造体と内装・設備を明確に分離した更新性の高い計画とします。また、メインの機械室を最上階に配置し、設備の集約化を図ることで経済性の高い庁舎とします。

c.　安全・安心のよりどころとなる防災拠点

防災拠点として、大地震、台風、集中豪雨など想定される自然災害に対して、庁舎自身が安全で機能維持できる計画とします。

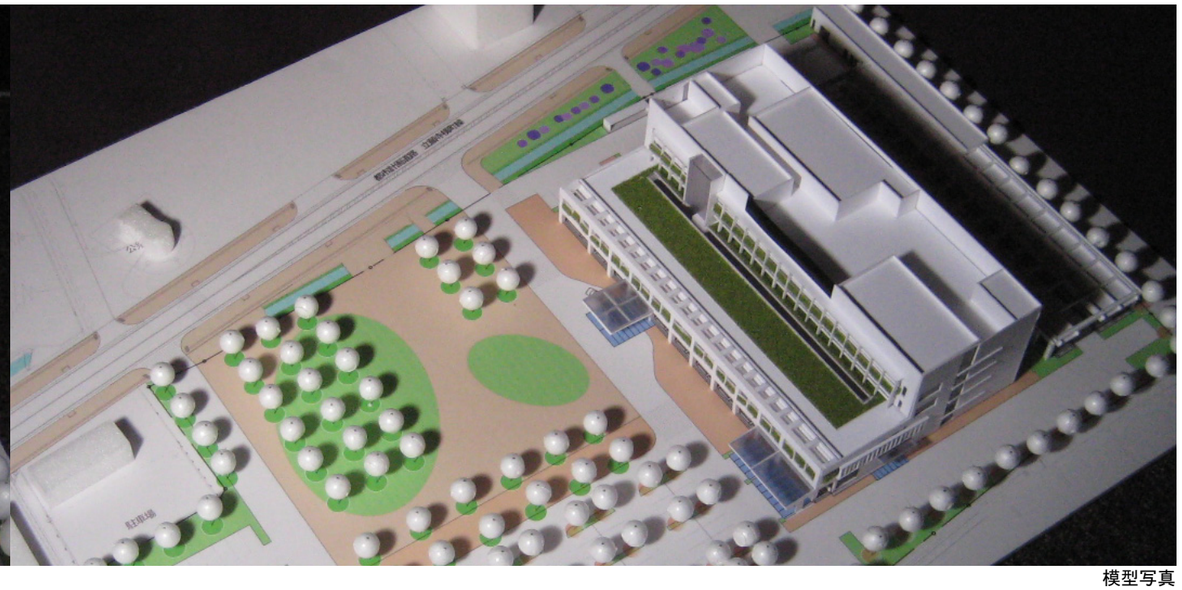
d.　新たな玉名市の心象風景を創出するランドスケープ

小岱山及び金峰山系の山々、繁根木川・菊池川などが生み出す自然景観・田園風景、九州新幹線の車窓からの風景などを意識した配置・デザインとすることで、田園都市玉名市の心象風景を創出します。

e.　環境共生型建築

玉名市の気候風土を踏まえ、自然通風や自然採光を取り入れた省エネルギー型の庁舎、長寿命建築とすることで環境負荷の低減に努めます。

模型写真



模型写真

2. 計画概要

1. 敷地概要

1	建設場所	熊本県玉名市岩崎
2	都市計画区域	都市計画用途地域外
3	道路幅員	西側：　16　m
4	用途地域	指定なし
5	防火地域	指定なし
6	敷地面積	約　27,000㎡（庁舎用敷地：約20200㎡、駐車場用敷地：約6800㎡）
7	法定建ぺい率	70 %
8	法定容積率	200 %
9	高度地区	指定なし
10	日影規制	なし

※表中の面積数値は概数

2. 建築概要

1	用　途	市庁舎	
2	建築面積	a. 庁舎棟	約　4,069 ㎡
		b. 別棟倉庫	約　291 ㎡
		C. 屋根付駐車場	約　1,090 ㎡
		d. 駐輪場屋根	約　85 ㎡
		小計	約　5,535 ㎡
3	延べ床面積	a. 庁舎棟	約　11,576 ㎡
		b. 別棟倉庫	約　291 ㎡
		C. 屋根付駐車場	約　1,090 ㎡
		d. 駐輪場屋根	約　85 ㎡
		小計	約　13,042 ㎡
4	容積対象床面積	約　11,760　㎡	
5	容積対象外床面積	約　1,282　㎡	
6	建ぺい率	約　27　%	
7	容積率	約　58　%	
8	構　造	a. 庁舎棟	鉄骨鉄筋コンクリート造、一部Ｓ造
		b. 別棟倉庫	鉄筋コンクリート造又は鉄骨造
		C. 屋根付駐車場	鉄骨造
		d. 駐輪場屋根	鉄骨造
9	耐火建築物等の制限	耐火建築物	
10	階　数	地上5階	
11	駐車台数	約660台　（障害者用6台を含まない）	
12	駐輪台数	約50台	
13	昇降機設備	乗用2台　（内、人荷用1台）	

※表中の面積数値は概数

3. 面積表

a. 庁舎棟

階	主要用途	容積対象床面積（㎡）	容積対象外床面積（㎡）	延床面積（㎡）
5階	機械室、倉庫等	約　692	約　0	約　692
4階	議場、正副議長、会派控室等	約　2,182	約　0	約　2,182
3階	執務室等	約　2,182	約　0	約　2,182
2階	執務室・会議室等	約　3,032	約　0	約　3,032
1階	エントランスホール、窓口 一般窓口/駐車場	約　3,381	約　107	約　3,488
合計		約　11,469	約　107	約　11,576

※面積表中の数値は概数、又、面積は実施設計において変動する可能性があります。

b. 別棟倉庫

階	主要用途	容積対象床面積（㎡）	容積対象外床面積（㎡）	延床面積（㎡）
1階	機械室、倉庫等	約　291	約　0	約　291
合計		約　291	約　0	約　291

※面積表中の数値は概数、又、面積は実施設計において変動する可能性があります。

c. 屋根付駐車場

階	主要用途	容積対象床面積（㎡）	容積対象外床面積（㎡）	延床面積（㎡）
1階	駐車場	約　0	約　1,090	約　1,090
合計		約　0	約　1,090	約　1,090

※面積表中の数値は概数、又、面積は実施設計において変動する可能性があります。

d. 駐輪場屋根

階	主要用途	容積対象床面積（㎡）	容積対象外床面積（㎡）	延床面積（㎡）
1階	駐輪場	約　0	約　85	約　85
合計		約　0	約　85	約　85

※面積表中の数値は概数、又、面積は実施設計において変動する可能性があります。

1. 全体配置の考え方

繁根木川沿いに「自然・田園・都市」を融合する都市的スケールの緑地を創出

既存の公的施設を、緑の骨格によりつなぎあわせ、繁根木川沿いの「緑のインフラ」となる都市的スケールの緑地（約 10ha）を創出します。この緑地は「生態系回廊」であると同時に、玉名の「歴史回廊」でもある菊池川や繁根木川、そしてその両側の丘陵地との連続性を意識した計画とします。

●景観の骨格を形成する「水と緑の回廊」のイメージ

人の流れの焦点となり、人間的触れあいに満ちた「シビックセンター」の核となる新庁舎

小岱山を背に有明海を臨む南向きの庁舎

平成の合併を契機に計画された庁舎として、新「玉名市」のほぼ中心に位置し、小岱山を背にして有明海を臨む、玉名の地勢に沿った南向きの庁舎とします。

新幹線、玉名バイパスからの印象的な建築形態

議場を北側に配置することで、玉名市の更なる発展の契機になる九州新幹線や玉名バイパスからの印象的なシルエットの庁舎とします。

人の流れの焦点となる新庁舎と「芝生広場」

隣接する市民広場公園と連続する「芝生広場」を設け、この広場に面して南向きに庁舎を配置します。広場に面した庁舎 1 階には交流・情報コーナーなどを総合化した「市民の間」を設け、休日・夜間も開放可能な計画とします。来庁者は駐車場から「芝生広場」を通って庁舎にアプローチする計画とすることで、いつも人の動きがある広場とします。

周辺施設への連携性を意識した歩行者空間

敷地周辺の 8 つの市の機関との連携性を意識し、街区全体の回遊性を生み出す歩行者空間の形成に寄与します。
特に、庁舎と市民会館などとを結ぶ南北の背骨となる歩行者空間「グリーン・プロムナード」による緑の骨格を形成します。

安全と交通渋滞に配慮した車の動線

交通渋滞を助長しないために、各駐車場の出入り口を分け、来庁者用駐車場は滞留スペースを確保した位置に配置することで安全確保に努めます。

他の施設と共用できる来庁者駐車場

来庁者駐車場は芝生広場に隣接させることで広場でのイベント時にも有効に活用出来るとともに、市民会館や勤労者体育センターなどとの共用を考慮した配置とします。

計画地周辺には、市民会館や合同庁舎などの公共施設が集まっているものの、相互の関連が十分とはいえません。新庁舎の計画により様々な世代が集まるこれらの施設を明確に関連付け、人の流れの焦点となり、人間的触れ合いに満ちた「シビックセンター」形成の核となる新庁舎を実現します。

●新庁舎と既存施設をつなぎあわせ創出する、一体的な緑地空間のイメージ

2. 配置計画

隣接する市民広場公園・駐車場を含めた利便性・拡張性を意識した土地利用計画

・芝生広場は、隣接する市民広場公園との一体的なイベント利用時には、都市計画道路を歩行者天国とし、敷地内道路を都市計画道路の迂回路としても利用が可能です。駐車場はイベント時の駐車スペースとして利用が可能です。

・芝生広場は、常に市民活動がある情景を作りだし、災害時には防災スペースなどへの利用も可能です。

・都市計画道路にほぼ平行して、敷地中央を南北に貫く長さ 200 mに及ぶ並木の街路：グリーンプロムナードを設けます。周辺地区の開発の象徴となる緑の骨格を形成することで新たな玉名市の原風景を創出します。

・芝生広場を含め、敷地内には玉名市らしさを表現する樹種の選定、常緑・落葉樹など時間をかけて樹木を育むことで四季の変化に富んだ緑豊かな庁舎のイメージを創出します。

模型写真

模型写真

3-1. 平面計画

充実した市民サービスと住民自治のための「開かれた庁舎」づくり

迅速で的確な窓口サービス、プライバシーに配慮した相談業務などの充実した市民サービスを提供できるとともに、地域社会を担う市民・議会・行政の三者が主体性を持って市政に参加できる場を持つ「開かれた庁舎」を実現します。

見通しの良いオープンフロアに、窓口ゾーンを集中配置

窓口部門は 1 階に集約し、窓口の総合化を図ります。
1 階には市民、福祉、税務などの窓口部門を、見通しの良いオープンフロアに配置し、市民の利便性に配慮します。

「クイック窓口」と「ステイ（滞在型）窓口」

最も利用が多い市民課の窓口は、諸証明申請・交付の対面式即時発行の「クイック窓口」と手続きに時間を要する「ステイ（滞在型）窓口」（住民異動・戸籍などの届出と保険年金関係）により構成します。なお、プライバシーに配慮した共用の相談ブースを複数設けます。

将来の変化に対応できる執務空間

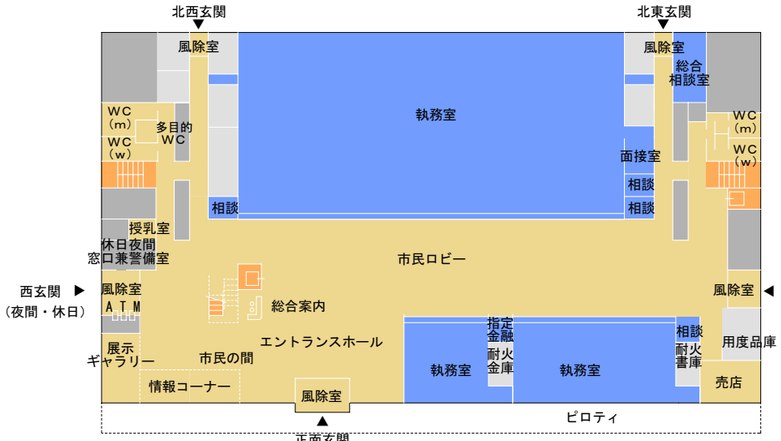
執務空間は、行政需要の変化や情報化の進展に伴う変化、定型業務中心から政策立案を主とする業務への変化、組織単位の働き方からプロジェクト単位の働き方などに対応するために、レイアウトや間仕切りの自由度が高いオープンフロアの執務空間とします。

独立性を保った「議会の場」

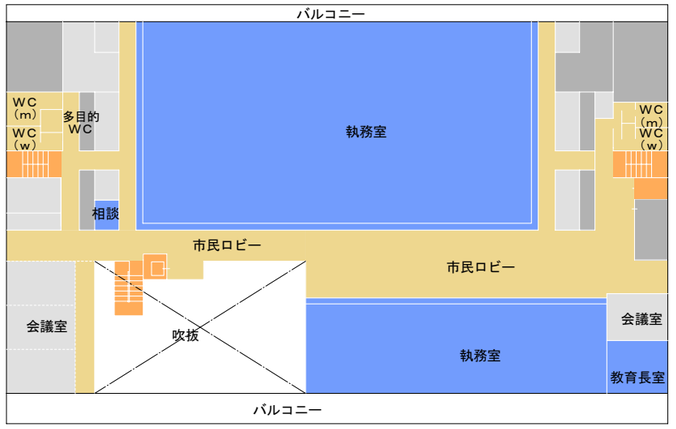
議会は、独立性を保つために 4 階に配置します。その最高意思決定の場である議場は、住民自治の象徴として、新幹線、玉名バイパスからの遠望に対しても印象的なシルエットとします。

市民の交流の場となる「市民の間」

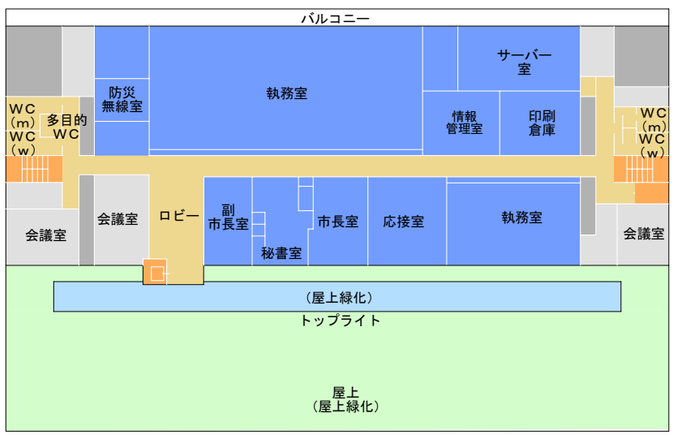
「芝生広場」に面した 1 階部分に、情報コーナー、展示ギャラリーなどを総合化した「市民の間」を配置します。
市民の間は、明るく、見通しの良い 1,2 階の吹抜空間とし、市民開放の場を強く意識させる空間とします。



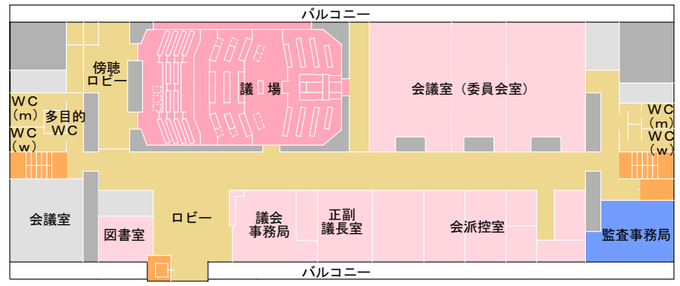
1 階平面ゾーニング図



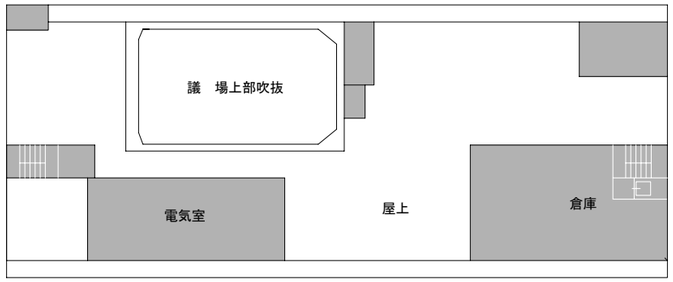
2 階平面ゾーニング図



3 階平面ゾーニング図



4 階平面ゾーニング図



5 階平面ゾーニング図

模型写真

3-2. 低層階（1，２階）の考え方

エントランスホール・市民の間は１・２階が一体となった明るく見通しがよい吹抜空間とし、吹抜を介して窓口部門や会議室を集中させることで、市民の利便性を高めるとともに、市民交流の場としても利用できる計画とします。

・１階は住民記録・戸籍など利用者の多い窓口や、福祉部門など利用者の移動負担の大きい窓口を中心に配置し、ワンストップサービスの導入を図ります。

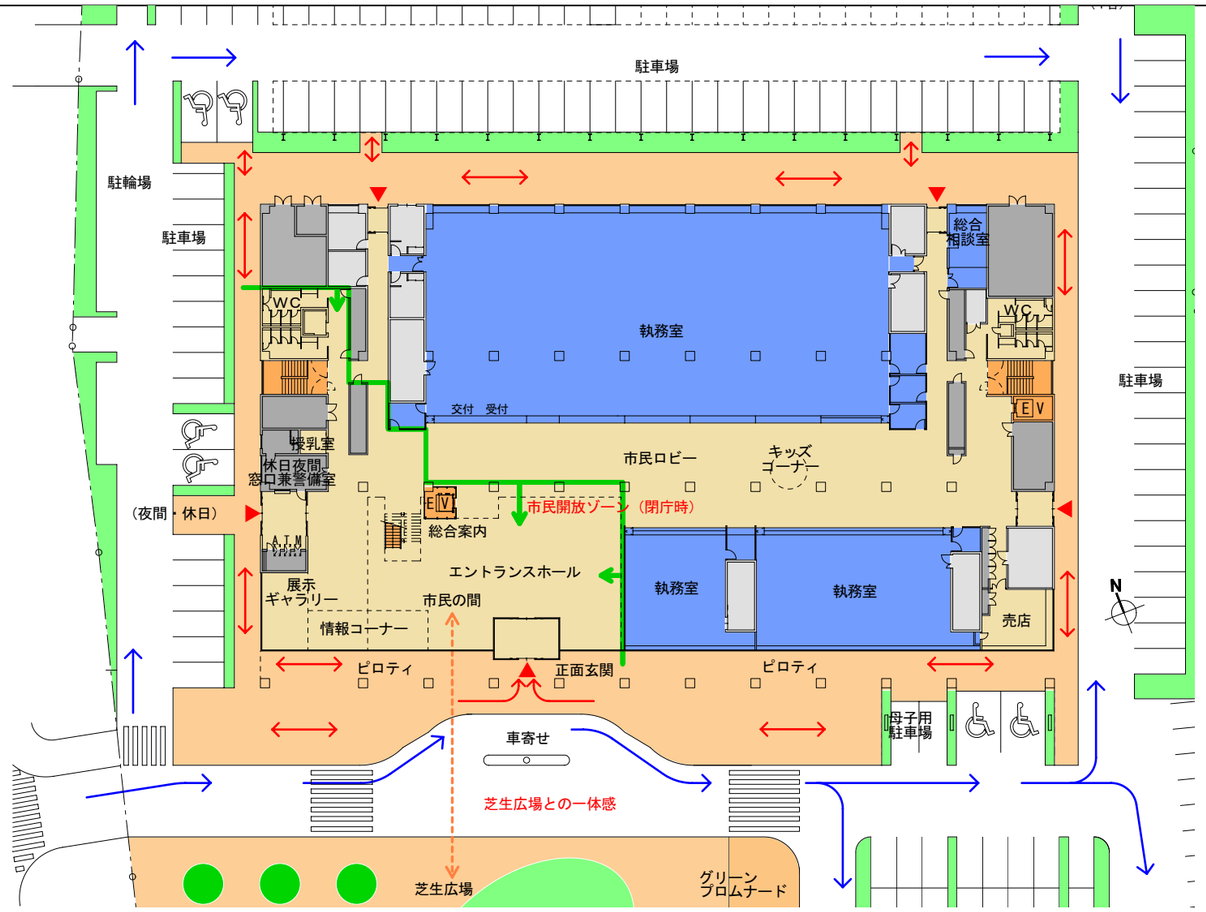
・吹抜により視認性の高い２階にも市民サービス部門窓口を中心に配置し、バリアフリー化した専用エレベータにより、誰もが使いやすい空間とします。

・１階エントランスホールは、市民ラウンジや情報コーナー・展示ギャラリーを設置し、市民が集い、交流の場として利用できるとともに、さまざまな情報発信を促す場所とします。また、開放的な空間を利用したミニコンサートなどのイベントも可能な場所とします。

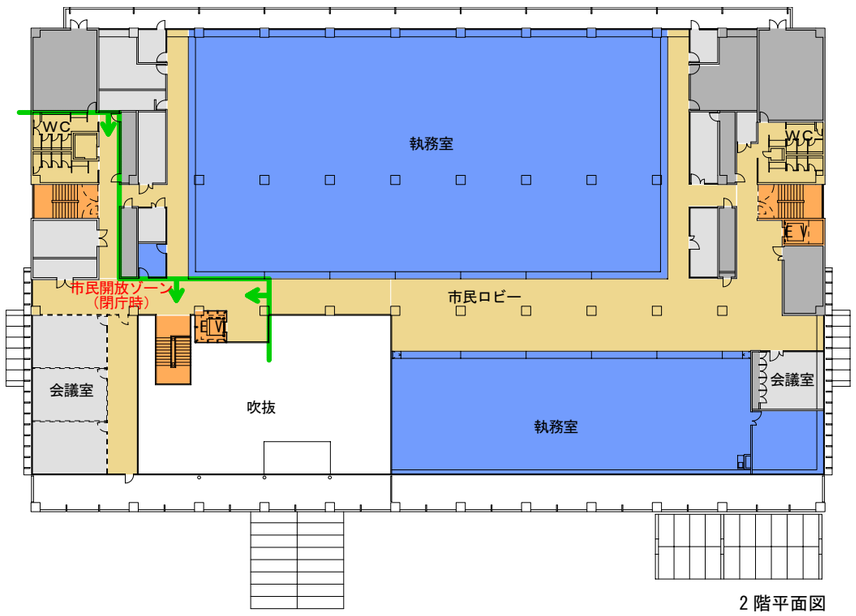
・授乳室やキッズコーナーを設置し、子ども連れの来庁者の利便性に考慮した計画とします。

・執務エリアと市民利用エリアに明確に区分し、休日や閉庁時にも市民利用が可能な計画とします。

エントランスホールイメージ



１階平面図



２階平面図

3-3. 中層階（3 階）の考え方

執務室としての機能性と将来的なレイアウト変更に対する柔軟性確保のため、東西両サイドコアと大スパン構造によるまとまった執務空間とします。

・整形でオープンな執務室を確保することで、執務レイアウトの自由度を高め、将来的な組織変更にも柔軟に対応できる計画とします。

・オープンな一体的執務空間は、視認性がよく部署間相互のコミュニケーションをとりやすい空間となります。

・両サイドコアによる動線の使い分けも運用上可能なものとし、セキュリティや管理面で「利用しやすい・働きやすい」動線計画とします。

・東西両サイドコアは執務空間に対する西日の影響を低減するとともに、執務室からの明確な２方向避難を確保します。

・方位別の熱環境の違いに合理的に対応するために、複数のゾーンに区分した空調を行い、省エネルギーに努めます。

3-4. 議会フロアの考え方

議会と市民が集うゾーンとして、明快で開放的な空間構成とし、併せてセキュリティ、管理面に配慮した計画とします。

・議場フロアの北側に議場・会議室（委員会室、全員協議会室等）をまとめて配置します。

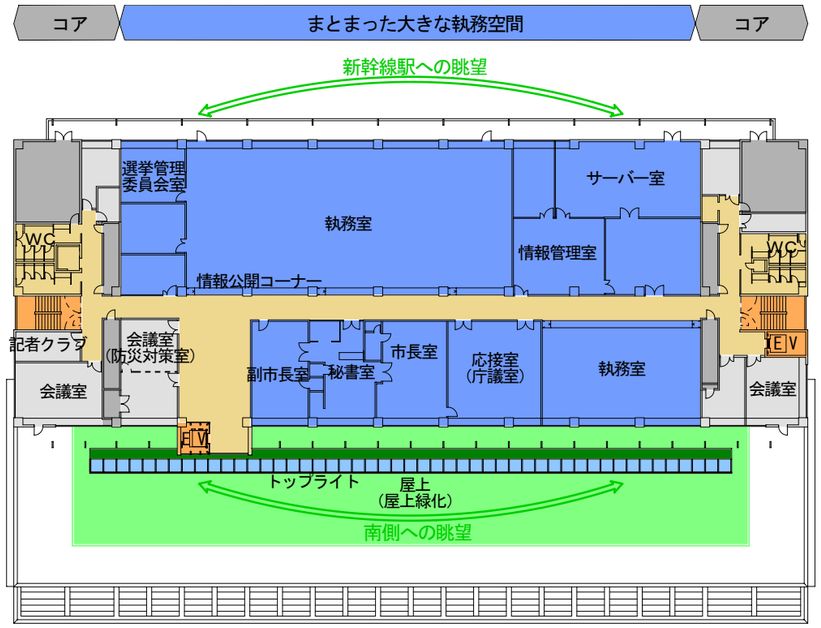
・傍聴ロビーをエレベータホール近くに配置し、議場への動線をバリアフリー化することで、傍聴者に利用しやすい計画とします。

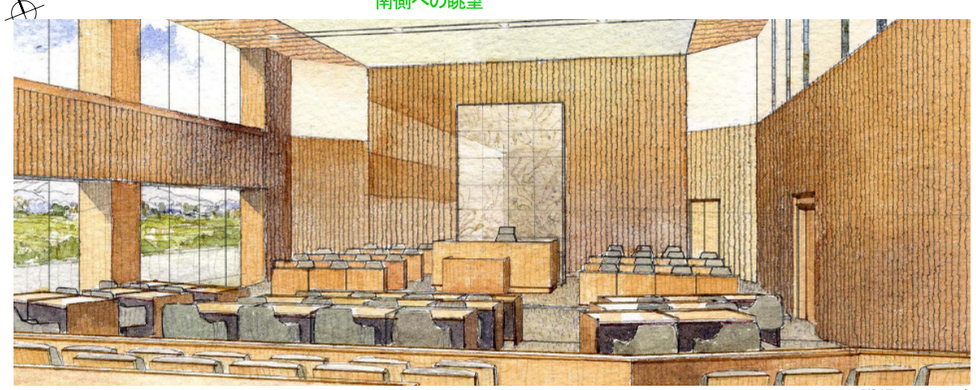
・南側には議会事務局をはじめとする議会関連執務室を集中配置し、議会事務局の運営管理を行いやすくするとともに、会派の人数の変動に対しても柔軟に対応できる計画とします。

・議場は自然光が入る明るく開かれたイメージの空間とします。議員席・執行部席ともにバリアフリーに配慮したスロープ形式とし、傍聴席も同一フロアに配置することで市民との一体感のある構成とします。

・議会開催時に使用されることがない会議室を執行部控室として利用できる計画とし、スペースの効率化を図ります。

・議会開催時の様子は館内放送システムにて、傍聴ロビー・エントランスホール等にて一般市民に公開できる計画とします。





議場イメージ

4. 立面計画

新「玉名市」の象徴となり、市民に親しまれる外観デザイン

a. 景観との共生

・縄文時代から現代に続く玉名市の歴史は、豊かな自然、田園風景のもとに育まれたものです。緑豊かな自然の景観に調和する形態と色調を持つ外観デザインとします。
・周辺地域、新幹線新駅、玉名バイパスからの見え方を意識した印象的なシルエットをもつ形態とします。

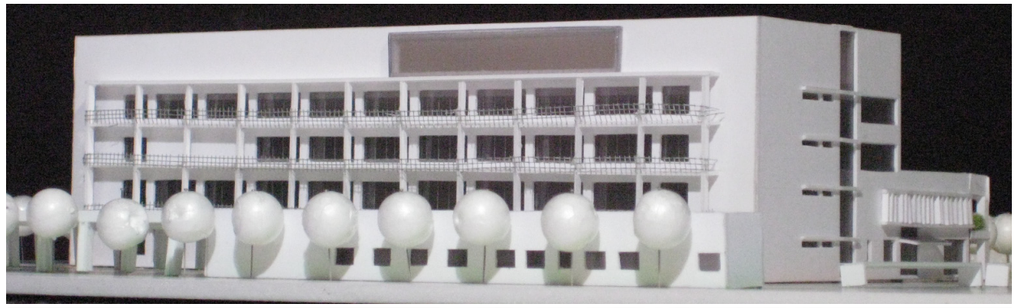
b. 環境との共生

・エコ庁舎の考え方に基づき、省エネルギー化・長寿命化に寄与する地球環境にやさしい外観デザインとします。
・玉名市の気候風土を踏まえた建築計画、先端技術を活用した快適なアメニティを創出する外観デザインとします。

c . 伝統との共生

・市民に親しまれてきた旧庁舎の伝統的なデザインモチーフを生かすとともに新市にふさわしい外観デザインとします。

鳥瞰イメージ



模型写真

アイレベルイメージ

5. 断面計画

庁舎としての市民開放機能と環境共生機能が融合した特長的な断面構成とします。大スパン構造と余裕のある階高設定により、将来的な執務レイアウト変更に対する柔軟性を確保します。

・吹抜のエントランスホールは、来庁者動線の核となりながら、執務エリアと市民開放エリアを緩やかに分割します。また、エントランスホールの上部には、自然排煙機能を持ったトップライトを設置し、低層部に自然採光を取り入れるとともに、自然換気を可能な計画とします。

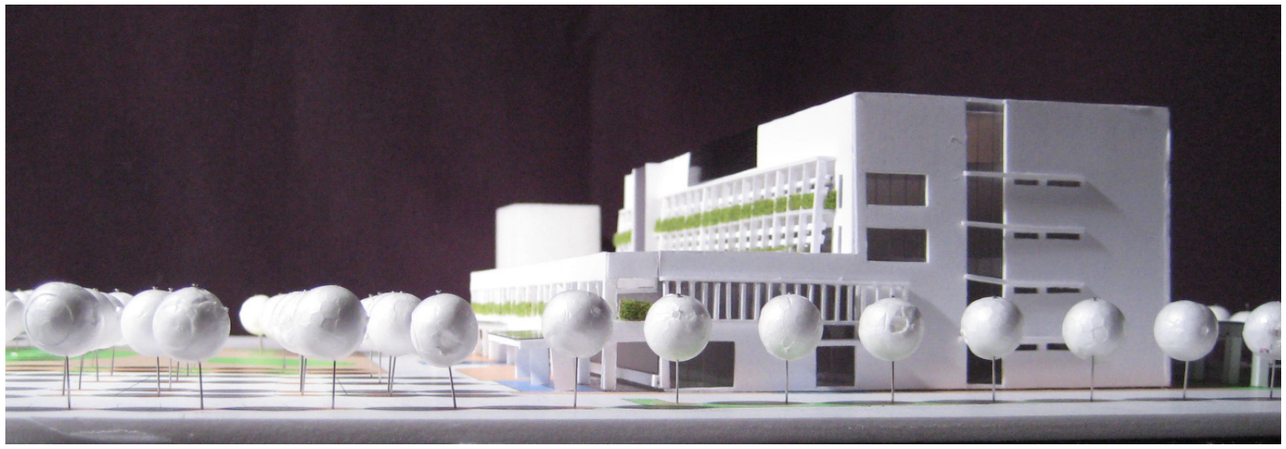
・メインの機械室を 5 階に配置することで、水損防止対策を施します。また、地下に機械室を作らないことで、コスト的な合理化を図ります。

・南側センター、東側コアに、エレベータを 1 機ずつ分散配置します。来庁者の利用頻度が高い南側センターのエレベータは 4 階までの停止とし、運行効率を高めます。一方、東側のエレベータは主にサービス用の動線として、5 階倉庫にも停止する人荷用エレベータとして設置します。

・屋上緑化を積極的に行なうことで、ヒートアイランド現象を抑制しながら、室内の空調負荷を低減します。

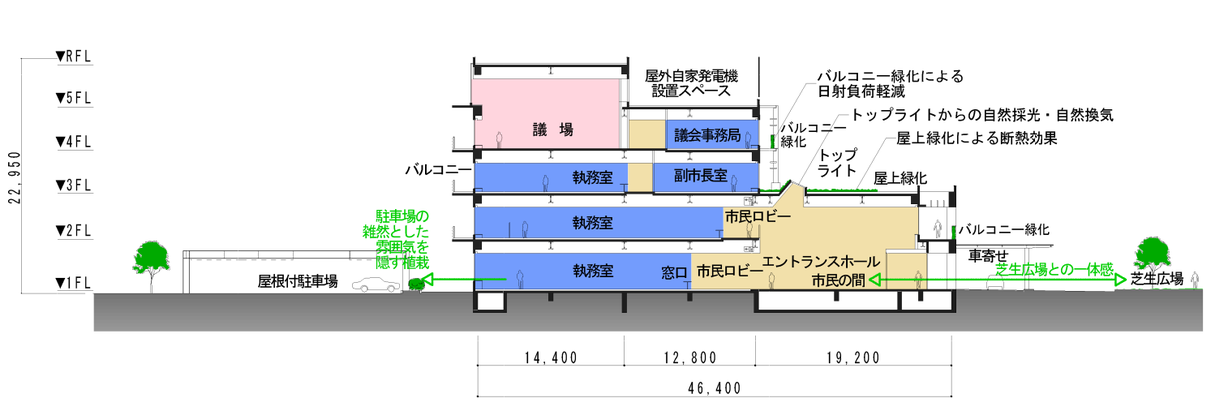
・3 階以上の執務室の階高は 4200㎜ とし、OA フロア 150㎜（実施設計にて再度検討）を確保した上で、天井高 2800㎜ を確保する計画とします。大スパン方向の梁を鉄骨とすることで、梁貫通による設備ルートを確保し、天井内部の設備ルートについても柔軟な変更を可能とします。

・南側のバルコニーには日射を遮る効果、北側には雨の打ち込みを防ぎながら自然換気できる効果があります。防災上もバルコニーを利用しての避難が可能であり、リフレッシュ空間としての執務環境の向上にも寄与できます。

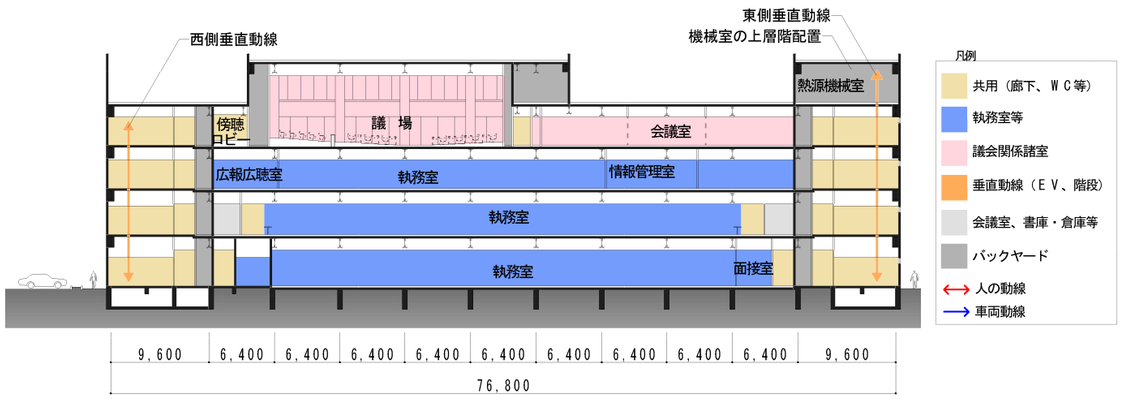


模型写真

模型写真



南北断面図



東西断面図

6. その他の施設の考え方

ａ．安心・安全な長寿命建築

LCC（ライフルサイクルコスト）縮減目標 25%

長寿命建築の実現、合理的維持管理、自然エネルギーの積極的活用を基本に、建設コスト、ランニングコストの縮減を図ります。

建設コストの縮減手法

項目	主な縮減手法
地下無しの計画	土工事、山止め工事、水替え、地下構造体の縮減 場外排出土の削減
構造体	柱ＳＲＣ造、梁Ｓ造の耐震構造（重要度係数1.5） （今後50年以内に震度6弱以上の地震発生確率は2%以内なので費用対効果を考え免震等は採用しない。）
外装・内装	シンプルなディテールの外壁、内装材の標準化
設備	負荷削減による機器容量、台数削減
その他	汎用品の活用 資材や付帯設備のリバースオークション導入

ランニングコストの縮減手法

項目	主な縮減手法
長寿命	レイアウト自由度が高いオープンフロア 構造体を直接外気にさらさない外装システム 外断熱により躯体に対する熱の影響を抑制 耐久性が高くメンテナンスフリーの素材の採用 構造体と内装を明確に分けた容易に改修可能なシステム
エネルギー費用の削減	外断熱、高気密サッシ、複層ガラスによる空調負荷削減 夏季早朝に室内空気を涼しい外気と入れ替え（ナイトパージ） 自然換気と機械換気を組合わせたハイブリット換気 氷蓄熱空調により安価な夜間電力を活用 昼光利用、調光照明、人感センサーで照明電力削減 高効率空調換気設備システム（VAV、高温度差送水等）
自然エネルギー活用	両面採光による自然採光、自然換気促進、ナイトパージ 太陽光発電の採用
運営	高機能中央監視による省エネ運転管理 ライフサイクルマネージメント支援(性能検証, 中長期維持保全計画等)

防災拠点となる「市民を支える庁舎」

防災拠点として、大地震、台風、集中豪雨などの想定される自然災害に対して、庁舎自身が安全で自立的に機能維持できる計画とします。

項目	主な提案
災害対策本部機能	災害対策本部室、無線室などの関連諸室の集中配置 仮設アンテナ設置場所の確保 ロビー・会議室などの機能転換
機能維持	無停電電源装置、７２時間対応自家発電設備の設置 電力・通信の二回線引込みと幹線設備の二重化 太陽光発電など新エネルギー活用
救援活動	広場や駐車場、市民公園広場を一体運用 雨水の活用
地震対応	構造体の重要度係数1.5の耐震構造
水害対応（豪雨など）	電気室、熱源機械室等基幹設備の屋上階設置 １階床高さを周辺より高く設定、防水板の設置

ｂ．誰もが利用しやすいＵＤ

障がいを持つ人、高齢者などの社会的参画が進むなか、誰もが利用しやすい明確な空間構成を基本に国際的水準のＵＤ（ユニバーサルデザイン）を実現します。

UD 建築ガイドラインに基づいた施設計画

熊本県のユニバーサルデザイン建築ガイドラインに基づいた施設計画とします。庁舎設計の実績におけるユニバーサルデザインの蓄積と課題を踏まえ、専門家の意見も取り入れながら計画を進めたいと考えます。

本計画でのUDの主な取組内容の検討・検証

項目	主な取組み内容
案内・誘導	動線の最短化、段差のない計画、廊下の手すり設置 床材等と、輝度比が大きい誘導ブロックの選定 敷地内の通路勾配４％以内
サイン等	触知案内サイン、音声誘導、非常文字放送、 聴覚障害対応フラッシュライト 車椅子、高齢者、子どもにも見やすい案内表示 表示高さ、文字サイズ、弱視を考慮した色彩
色彩計画等	床色と壁色の明度差確保 光らない仕上材料の選定
トイレ等	障害と行動特性を把握した計画 多目的トイレの各階設置　授乳室設置
会議室	集団補聴システム
議場	車椅子を考慮したスロープの議場（議員席・執行部席）、 車椅子を考慮した発言台の昇降床、 車椅子用の傍聴スペース、集団補聴システム
エレベータ	聴覚障害対応のかご内双方向モニターテレビ導入の検討 聴覚障害対応としてのＥＶ扉のシースルー化の検討 車椅子対応、点字表示、到着音の上行・下行の区別
駐車場	正面玄関脇に屋根付で設置、背面に通路確保
その他	家具・自動販売機・ATMなどの障害者対応

ｃ．「21 世紀の田園都市・玉名」の象徴となる「先進的なエコ庁舎」

気候風土を踏まえた建築計画、先端技術を活用した自然採光・自然換気を促進するシステムの追求、緑地の確保などの地域環境との共生を図ります。

1　バルコニー手摺の緑化

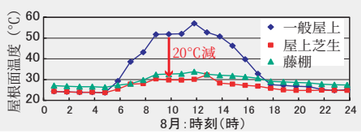
バルコニー手摺を緑化することで、その蒸散効果および輻射熱の軽減により省エネを図ります。

2　太陽光発電

屋上部南面外壁に太陽光パネルを設置。「市民の間」の照明に活用。太陽光発電システムからの CO2 排出量は、製造工程も含めたライフサイクルにおいても化石燃料発電より少なく、地球温暖化防止に貢献します。

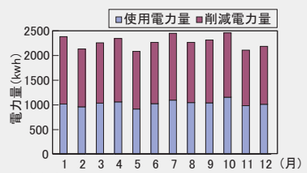
3　屋上緑化

夏期においては、屋根面からの熱負荷は大きいため、屋上に植栽を設けることは、その断熱作用及び植物の蒸散作用により省エネ効果が高く、夏のピーク時で屋根面の表面温度を20℃、最上階の室温を 3℃下げる効果があります。



4　ライトシェルフ＋昼光利用照明システム

ライトシェルフは直射日光を遮り、光を窓際で反射して部屋の奥へ導きます。北側は安定した天空光を採り入れる大きな窓とします。昼光利用照明システムとの組合わせにより照明電力の 60%削減を目標とします。



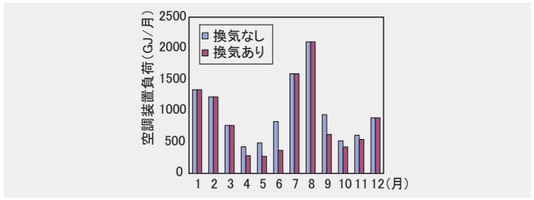
某庁舎：昼光利用照明システムによる照明電力削減の実績（55%削減）

5　自然換気を促進する「風の塔」

玉名市の中間期の平均風速は約 1.5 ｍと風が弱いので、上下の温度差による煙突効果で自然換気を促進するソーラーチムニー「風の塔」(階段室を活用）を設けることで、ナイトパージにも利用します。

6　自然換気による省エネ効果

中間期（春、秋）に自然換気を活用すれば、年間空調エネルギーの 15% の削減が可能。本計画では南北方向に通風確保することを提案します。バルコニー設置により、雨の日も窓開けが可能です。



某庁舎：自然換気による空調負荷削減の実績（年間 15%削減）

7　複層ガラスの採用

夏は日射熱の侵入を抑え、冬は暖房熱の流出を抑える効果が高い高遮熱断熱型の複層ガラスを採用。冬の冷輻射や冷気の吹きおろし防止にも有効です。

8　リサイクル材の活用

2 階南側バルコニーのウッドデッキに再生木材を利用するほか、再生舗装材などのリサイクル材料を積極的に活用します。

9　屋上階の機械室

屋上階を機械室とし、熱の緩衝空間とすることで、屋上面から居室への熱の貫流を防ぎます。

10　緑化と広場・駐車場の保水性舗装

敷地内を積極的に植栽・芝により緑化することで、植物の蒸散効果により涼風効果を生み出します。
また、広場や駐車場は保水性舗装とすることによって、夏季はその蒸散効果で地表面の温度を下げ、熱環境を改善します。

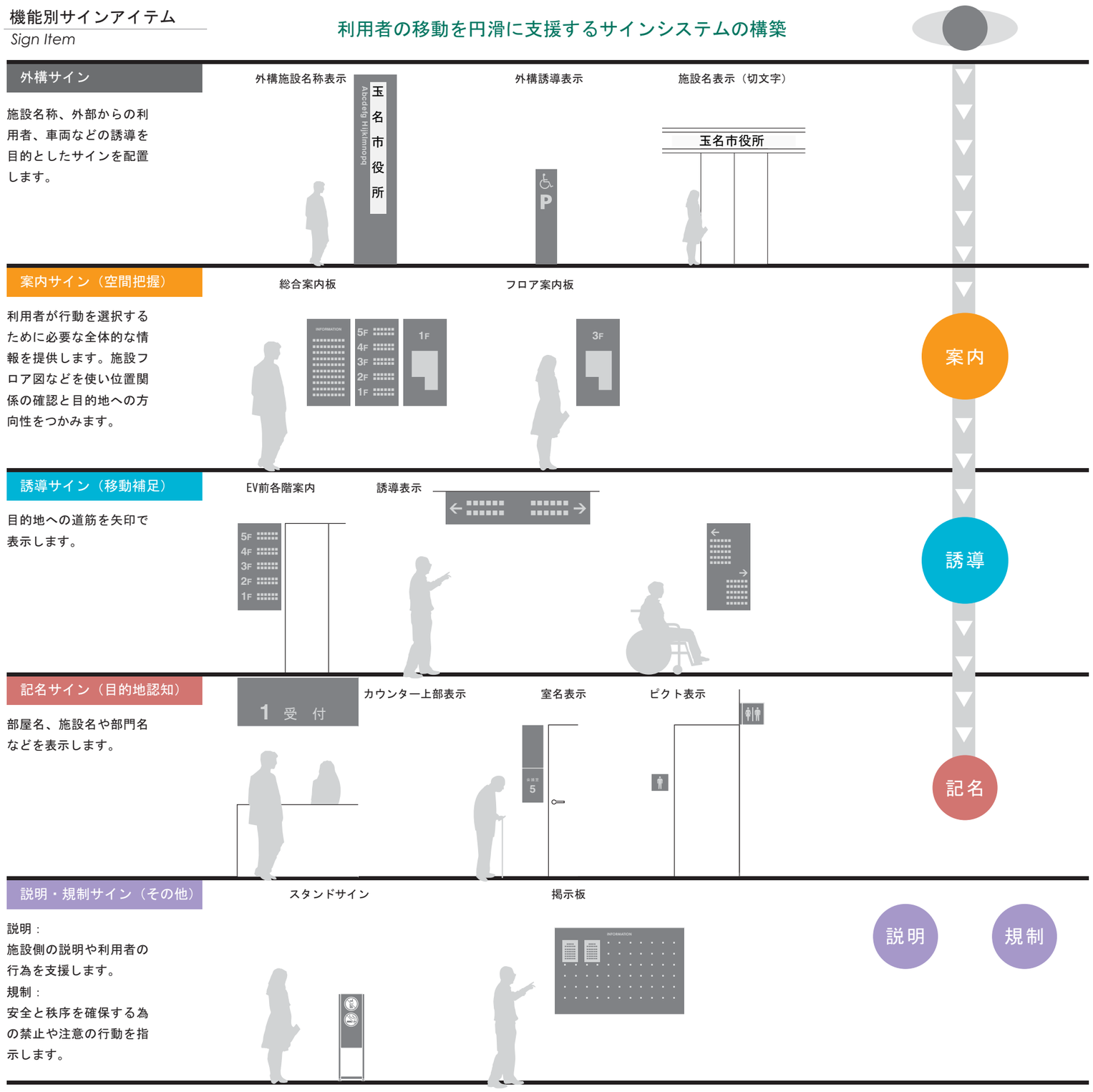
d . だれもがわかりやすい施設

サインの基本理念と目的

多くの人が求めている情報をわかりやすく提供して、ストレスを感じること無く施設内の行動や移動を円滑にいくよう支援します。
施設と利用者を結ぶ情報を提供することによって、利用者に信頼感と安心感を培い、安全で快適な環境形成に貢献します。
施設を利用する人々の様々なニーズと特性に幅広く対応します。

■サインの種類と体系

様々な方が利用されるような施設では、人の行動と情報の内容、サインの種類を整理分類して表示情報のあるべきかたちを検討し、利用者に対していかにわかりやすく伝えるかということがサイン表示の基本です。
利用者が移動する際に、どの［場所］で、どんな［情報］を、どの［種類］のサインで提供するかを検討し、動線上に配置する計画を立てます。

機能別サインアイテム
Sign Item

利用者の移動を円滑に支援するサインシステムの構築